



取締役 専務執行役員 環境管理担当 水上龍介
代表取締役 社長執行役員 山本次男

今年は例年になく多数の台風が日本に上陸し、自然災害の前に人々は本当に無力であることを改めて思い知らされた年でした。

広辞苑で「自然」という語彙を引いてみますと「人類の力を超えた力を示す森羅万象」とあります。人々は、時として自然に翻弄されてきましたが、いつの時代でも自然に生かされているという敬虔な心を持ち、自然を恐れ、技術の進歩に驕ることなく、自然界との調和を取り続けることが環境保全上の基本であると考えております。

生産活動の大部分を海外で行っているミネベアは、環境保全活動を最重要な経営方針の一つとし、自国のみならず、お世話になっている海外の国々やその地域社会に歓迎される企業づくりを目指してきました。

この考え方にに基づき、地域社会の自然環境を損ねることのないような工場建設及びその運営を行ってきた結果、ミネベアの世界各地の工場や営業拠点を含めた

事業所が、その所在地域での自然環境との調和をはかり、環境保全、さらには改善に貢献することができたと自負しています。同時に、ミネベア製品が、直接的あるいは間接的に地球環境への負荷の増大、あるいは地球環境の破壊に加担しないようにはかることが併せて重要であることは多言を要しません。

その意味でミネベアは、1996年には、化学物質の管理を目的とするMMDB(Minebea integrated Material Data Base)を完成させてグループ全体での活用を開始すると共に、グリーン調達の実施や地球環境、即ち、人類の健康及び安全に影響する化学物質の規制を目指すRoHS指令への対応等に積極的に取り組んできております。

環境保全活動において、最も重要なことは、環境ビジョン・ISO 14001認証・各種の社内環境関連規定等々を単なる文書として放置し、形骸化させることのないよう、それら文書に基づいての、いわゆるPDCAを実践することであり、ミネベアはそれを着実に実践してきております。

今後も、利害関係者の意見を真摯に受け止め、自然環境と調和した企業活動を行うことが企業存続上の最重要な責務であることに思いを致し、その実践を通じてミネベアをより倫理性の高い企業に育てて参りたいと考えております。

この環境レポートは、ミネベアグループの環境保全に関する基本的考え方や実践状況を多くの方々にご理解いただくためのものです。ミネベアに関心をお寄せいただいている多くの方々に感謝申し上げますと共に、このレポートの内容につきましても、ぜひ、忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

2004年8月

山本次男

代表取締役 社長執行役員
山本 次男

水上龍介

取締役 専務執行役員
環境管理担当
水上 龍介